

94
10
39

準貴

安永五月初申同六丁酉

公義被御上光

同七我身春遠

安永五年丙申同六月丁酉

江右

公義我御上

梧子

藏書印

同古成戊午春

衣御書札

西永五丙申年

三月廿四日

大... 通... 松... 伊... 掛... 沙... 義... 如...

胡... 作... 時... 中...

物母是知... 傳念... 車同... 作通... 中... 以上... 以上... 以上...

國二月

清若

申二月晦

和... 二月... 以上... 以上... 以上...

漢... 以上... 以上... 以上... 以上... 以上... 以上... 以上...

二月十三日

清若

私... 以上... 以上... 以上... 以上... 以上... 以上... 以上...

忌母日

二月十日

二月十日

二月十日

二月十日

二月十日

二月十日

臘九十日

友通志結交中

二月十日

書

雨申

壬午年

...

...

...

...

...

...

...

筆字有失百回

津書成て

津書成て

古の流傳を承りて其の如く日蓮田舎の
心成りて

昔の事なりと津書成りて

此の事なりと津書成りて

此の事なりと津書成りて

此の事なりと津書成りて

此の事なりと津書成りて

此の事なりと津書成りて

此の事なりと津書成りて

此の事なりと津書成りて

此の事なりと津書成りて

此の事なりと津書成りて

筆字有失百回

津書

古の流傳を承りて其の如く日蓮田舎の

津書

流者自磯七地播り日ノ刻比南風ノ如ク
物ヲ以テ波活物切ニ波以テ集集風者ニ
日中卯ノ刻比子ノ方ニ波有リ人々集テ
志ノ外申中刻比右ノ方ニ波有リ能ク
清津ノ如ク申下ノ風ニ波活物切以テ清津ノ如ク
海ノ方風下右掛以テ人々集テ日中酉ノ刻比
卯ノ方ニ波有リ申中刻比酉ノ方ニ波有リ能ク
大風波ノ如ク波集テ可ク行年掛り日中夜
ノ刻比子ノ方ニ波有リ申中刻比子ノ方ニ波有リ能ク

第ニ流波ノ如ク及磯ノ房ニ切リ波有リ
何ノ難波以テ申中刻比子ノ方ニ波有リ能ク
右ノ方ニ波有リ申中刻比子ノ方ニ波有リ能ク
揚右ノ方ニ波有リ申中刻比子ノ方ニ波有リ能ク
申中刻比子ノ方ニ波有リ申中刻比子ノ方ニ波有リ能ク
終ニ及磯ノ如ク波集テ可ク行年掛り日中夜
ノ刻比子ノ方ニ波有リ申中刻比子ノ方ニ波有リ能ク
揚右ノ方ニ波有リ申中刻比子ノ方ニ波有リ能ク
申中刻比子ノ方ニ波有リ申中刻比子ノ方ニ波有リ能ク
終ニ及磯ノ如ク波集テ可ク行年掛り日中夜
ノ刻比子ノ方ニ波有リ申中刻比子ノ方ニ波有リ能ク

夫方家后連... 船名... 行自... 著... 勿... 每... 胡... 每... 胡...

一 皇... 皇... 皇... 皇... 皇...

一 皇... 皇... 皇... 皇... 皇... 皇... 皇... 皇... 皇... 皇...

一 皇... 皇... 皇... 皇... 皇... 皇... 皇... 皇... 皇... 皇...

吾之於此也無所憚力之強也然亦猶之於少力也樂也亦樂也
法也

一 金瓶梅詞話續卷之積存者以如之出約法遊之淺之貴
之古文解解乃之有持法存者以中亦金瓶梅詞話
取法之法

一 雄解人之之德何求而貴未之法誠之神功也遊
以如之者有也此也
重此其切也
中國之末有七年 涉海為遊九日云

一 破瓶以不積存者為破瓶以如之揚人之河也
之法存者有也

字中元月廿三日
有七

射列端波新

涉海人象中核

中象志宗自年附

- 一 法華宗 中獨別年柱九歲 聖法有也
- 一 回宗 中白以年以我歲 多美法華

一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲

一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲
一	日宗	中白以年以孫七歲	日長以歲

破血以種石物

女產應書

一 實入砂糖之方子中白以孫七歲
右乃得之白以孫七歲

一 砂糖糖或方引、地自今高相

右乃糖之百提

右乃糖之百提

右乃糖之百提

砂糖以右乃糖之百提

一 糖之百提

一 糖之百提

一 柳之百提

一 少乃糖之百提

一 縁之百提

一 帳之百提

一 皮之百提

一 平之百提

一 鏡之百提

一 針之百提

一 綱之百提

一 浅之百提

一 糸之百提

望

子息の心

我々諸君の徳を以て相見せしめたるが如きは
中人徳業の五福の徳也。以て著し居りて人
嗜し居りて人轉仕居り。以て著し居りて人
徳也。

望子育世百

望子育世百
望子育世百

望子

望子

望子育世百

望子育世百
望子育世百
望子育世百
望子育世百
望子育世百

水

一 札年望子育世百

一 望子育世百

一 望子育世百

望子育世百

望子育世百

望子育世百

一 日之程九歲

點部

一 日之程八歲

古八

一 日之程七歲

仲七

一 日之程六歲

古部

一 日之程五歲

古六

一 日之程四歲

侍七

一 日之程三歲

新部

一 日之程二歲

古部

一 日之程一歲

孫三

一 日之程

孫部

一 日之程

孫部

右書此乃至極古人所造法華宗

無慈道具英種也

一 楊部

一 帆柱

一 帆柱

一 帆柱

一 楊部

一 樽二孫使

樽二孫使

一 旗籠七匹

一 帆四匹

一 走乃鼻

走乃鼻

一 市比網七三房

一 常網三三房

一 赤次網三三房

一 丹網五三房

一 若吉網三三房

一 柳籠三三房

一 柳籠三三房

一 旗籠三三房

一 旗籠三三房

一 旗籠三三房

一 旗籠三三房

一 旗籠三三房

一 旗籠三三房

一 旗籠三三房

一 張書出帆在日初出帆時
古之通船者實入此種書卷之日
沙羅及古之印之原何也
不可以余法口通也
古之形也

末
古之音

古書
古也

德之通河代書記

一 通河代書

古書書

古書於今也遠古之書也

末
古

德之通河代書
古書古也

古之通河

古改

書翰寫并初解

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

書卷之六

朝鮮國禮曹參議李

敬倫

奉書

日本國對馬州太守拾遺平公閣下

緬惟昂辰

啓唐珍勝瞻湖無已昂接濟州牧使馳

啓本年七月十六日有漂船壹隻來泊于加波島遣舌官問情則

貴國大隅州種子島人拾陸名到德島載持砂糖今七月初四日歸航因風浪大作拋棄

大船跳下小艇之際衣服風席等物若于卸下依岸得生無一人淪死而大船破碎於

洋中移乘小艇亦為抵觸於海岸巖石破傷無餘云云即令本牧各給種子

經列邑另加顧恤依其願從陸護送于館中以便轉解仍此具告統示
照亮不備

乙未年十月 日

禮曹參議李

敬倫

一筆致略之惟亦法望勝可之或涉江陸重
身存純名須日漸別之牧使在老脚名中數以
當年七月十二日漂航去被加波海之而為仕作身
譯之在去其為越回情仕以海之去國大渴別種中為之人
一解十人乘經海海之在越水糖之積案以之波而
七月官船帆之在洋中言大風遂難渡相見以才
本船之在乘傳乃之乘移漸岸上人會之別案

平海之舟人海去中亦傳聞左破碎仕以似中出以中
中越以乞其新海列之收使方亦禮等其意通
可之云氣別加在恤以仍方今度致送還云云使

乙未年十月日

禮曹參議李敬倫

從朝鮮回漂人之送物目錄寫

贈

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳夕肆里

甘醬捌升

白蛤鹽伍升陸合

鹽陸升貳合肆夕

甘藷貳斤拾兩陸錢陸分

右者大隅州漂民十六名自十月初九日夕十四日朝至一吾所供

乙未十月十四日訓導金判事

別差韓僉正

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳勺肆里

甘醬捌升

白蛤鹽伍升陸合

鹽陸升貳合肆勺

甘藷貳斤拾兩陸錢陸分

右者大隅州標民十六名自十月十四日夕十九日朝至一五日所供

乙未十月十九日 訓導 金判事

別差 韓僉正

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳夕肆里

甘醬捌升

白蛤鹽伍升陸合

鹽陸升貳合肆夕

甘藷貳斤拾兩陸錢陸分

右者大隅州漂民十六名自十月十九日夕二十四日朝至一五日所供

乙未十月二十四日訓導金判事

別差韓僉正

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳勺肆厘

甘醬捌升

白蛤鹽伍升陸合

鹽陸升貳合肆勺

甘藿貳斤拾兩陸錢陸分

右者大隅州漂民十六名自十月二十四日夕二十九日朝至一五日所供

乙未十月二十九日訓導金判事

別差韓僉正

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳夕肆里

甘醬捌升

白蛤醢伍升陸合

鹽陸升貳合肆夕

甘藷貳斤拾兩陸錢陸分

右者大隅州漂民十六名自十月二十九日夕閏十月初四朝至
一五日所供

乙未閏十月初四日訓導金判事

別差韓僉正

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳勺肆里

甘醬捌升

白蛤蜊伍升陸合

鹽陸升貳合肆勺

甘藷貳斤拾兩陸錢陸分

右者大隅州漂民十六名自閏十月初四夕初九日朝至
一五日所供

乙未閏十月初九日訓導金判事

別差韓僉正

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳夕肆里

甘醬捌升

白蛤鹽伍升陸合

鹽陸升貳合肆夕

甘藿貳斤拾兩陸錢陸分

右者大隅州漂民十六名自閏十月初九日夕十四日朝
至一五日所供

乙未閏十月十四日訓導金判事

別差韓僉正

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳勺肆里

甘醬捌升

白蛤鹽伍升陸合

鹽陸升貳合肆勺

甘藷貳斤拾兩陸錢陸分

右者大隅州漂民十六名自閏十月十四日夕十九日
朝至一五日所供

乙未閏十月十九日訓導金判事

別差韓僉正

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳夕肆里

鹽陸升貳合肆夕

白蛤鹽伍升陸合

甘醬酉捌升

甘藿貳升拾兩陸分陸分

右者大隅州漂民十六名自閏十月十九日夕二十四日朝至二五日
所供

乙未閏十月二十四日訓導

金判事

別差

韓僉正

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳勺肆里

甘醬捌升

白蛤鹽伍升陸合

鹽陸升貳合肆勺

甘藷貳斤拾兩陸錢陸分

右者大隅州漂民十六名自閏十月二十四日夕二十九日朝至一五日
所供

乙未閏十月二十九日訓導 金判事

別差 韓僉正

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳勺肆里

甘醬捌升

白蛤鹽伍升陸合

鹽陸升貳合肆勺

甘藷貳斤拾兩陸拾陸分

右者大隅州漂民十六名自閏七月二十九日夕十月初五日朝至
二五日所供

乙未十月初五日訓導金判事

別差韓僉正

白米壹石壹斗

大魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳勺肆厘

甘醬捌升

白蛤鹽伍升陸合

鹽陸升貳合肆勺

甘藷貳斤拾兩陸錢陸分

右者大隅州漂民十六名自十月初五夕初十日朝至五日
所供

乙未十月初十日訓導 金判事

別差 韓僉正

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳夕肆里

甘醬捌升

白蛤鹽伍升陸合

鹽陸升貳合肆夕

甘藷貳斤拾兩陸錢陸分

右者大隅州漂民十六名自十月初十日夕十五日朝至
一五日所供

乙未十一月十五日訓導金判事

別差韓僉正

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳勺肆里

甘醬捌升

白蛤鹽伍升陸合

鹽陸升貳合肆勺

甘藿貳斤拾兩陸錢陸分

右者大隅州漂民十六名自十一月十五日夕二十日朝至
一五日所供

乙未十一月二十日訓導金判事

別差韓僉正

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳勺肆里

甘醬捌升

白蛤鹽伍升陸合

鹽陸升貳合肆勺

甘藷貳斤拾兩陸錢陸分

右者大隅州漂民十六名自十一月二十日夕二十五日朝至
一五日所供合數

乙未十一月二十五日訓導金判事

別差韓僉正

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳勺肆里

甘醬捌升

白蛤鹽伍升陸合

鹽陸升貳合肆勺

甘藿貳斤拾兩陸錢陸分

右者大隅州漂民十六名自十一月二十五日夕二十日朝至
一五日前所供

乙未十一月三十日訓導金判事

別差韓僉正

白米壹石壹斗

大口魚捌尾

乾魚伍拾陸尾

真油叁升貳勺肆里

甘醬捌升

白蛤鹽伍升陸合

鹽陸升貳合肆勺

甘藷貳斤拾兩陸錢陸分

右者大梁州漂民十六名自十月三十日夕十一月初五日朝至一五日
所供

乙未十二月初五日訓導金判事

別差韓僉正

白米叁斗陸升

大口魚壹尾陸條

乾魚拾壹尾貳條

真油陸合肆里捌戶

甘醬壹升陸合

白蛤鹽壹升壹合貳分

鹽壹升貳合肆分玖厘

甘藷玖兩伍錢貳分捌厘

右者大隅州漂民十六名自十二月初五日夕初六日朝至一日
所供

乙未十二月初六日 訓導金判事

別差韓僉正

各渡海糧米拾斗

各衣資布壹匹

際

乙未十二月初六日

餅壹兜

酒壹瓶

大口魚伍尾

乾柿貳兜

計

乙未十二月初六日訓導金判事

別差韓僉正

覺

一白木衣拾陸件

一白木襪拾陸件

右者自濟州備給

乙未十二月 日訓導金判事

別差韓僉正

申
甲子

乃以同書之用者極倉本後校者
憶回字在亦亦集乃乃也之入之節事何之
以際我之之以此也

高甲月日光然

亦社至同沙接始也之勤句之辰秋後
高八月之張申之沙座之也句也也始也
以亦子同之也

二月

御名

中上公孫對馬中上公孫

六月

宗一 侯田伊左衛門

右守公孫列林内記帳由水急之海邊

胡舞國之遠別之由去二日也

中上公孫中上公孫

中上公孫中上公孫

中上公孫中上公孫

中上公孫

六月

侯田伊左衛門

申上公孫

中上公孫中上公孫

中上公孫中上公孫

中上公孫中上公孫

中上公孫中上公孫

中上公孫中上公孫

侯田伊左衛門

侯田伊左衛門

抄書右行

松平右衛門左衛門

朝鮮國白牛令定式

一 切板四子五百斤

一 明礬子五百斤

一 丹木八子斤

一 水牛角六百斤

右定式每半年定式長法於令市

唐物而抄に在る者一破之書未仕流

其法長法を以て市中に在る者

後しうては是れに非ず

一 日中朱八斤

一 紋紙三音板

一 府法家全守院

一 府法中夜

一 府法左夜

一 洞中凡

一 合屏凡

一 洞三万石の銀を産す

一 流代海抜五百石の銀を産す

右に定めて乙貿易の品を以て其の品を可成

と云ふ流代と云ふ流代は流代と云ふ流代

右に定めて古銀を以て流代の中

一 古物銀指貫六百石の指貫を産す

右に朝鮮國四石の銀を以て流代の中

古物銀指貫六百石

右に古銀を以て流代の中

被り方に入通るは米本流、振替古銀を以て流代

其の中古銀を以て流代は重くは元米本流

お振替古銀を以て流代は重くは元米本流

其の中古銀を以て流代は重くは元米本流

其の中古銀を以て流代は重くは元米本流

一 銅指貫万斤

内二万斤

乙貿易の定数

同七万斤

乙貿易の定数

其の指貫万斤の内乙貿易の定数

約重... 右拾万斤

洞定式... 自製

於洞... 自製

中... 自製

下... 自製

中

古... 自製

五月

御名

御名... 御書

朝鮮... 自製

切... 自製

明... 自製

丹... 自製

水... 自製

日... 自製

後... 自製

海... 自製

海... 自製

音

...

一 海濱惠中大碑高

一 銅井凡高

一 令屏凡高

一 洞三子凡高

一 流代法指高

一 高物法指高

一 洞指高

一 洞三子

一 洞七子

乙 貿易之定數

此洞指高之定數

約案之定數

洞定式之定數

於洞定式之法

中之定數

一子之定數

一子之

右 乃書裁

一子之定數

記 背くを古きく物後之れを連
るるのち厚中換利をかく換るる事をさす所除
九の八七六の故に此の如きし事ありきる
中在る下より又是るとに於て皆除るる代物
後對加朝鮮山支度之實海産物をさす也
亦さくは代物と古物來ると一さくは海
牙代物と代物と一さくは海産物とたす所
心測るる古物除るるをさすを金貨の二十五年
さくは代物と一さくは代物と一さくは海産物と
是くは代物と一さくは代物と一さくは海産物と
是くは代物と一さくは代物と一さくは海産物と

五月

御名

長治の古物は是れ古物と云ふ也

乙 貿易の古物は長治の古物と云ふ也

一 胡椒の子五百斤は

一 胡椒の子五百斤は

冊石八百斤は

一 水牛一箇六百五拾兩

右 汝書載之 唐為之 亦于年中 定或分

之 唐之 亦于年中 定或分

亦于年中 定或分

亦于年中 定或分

亦于年中 定或分

亦于年中 定或分

亦于年中 定或分

亦于年中 定或分

亦于年中 定或分

亦于年中 定或分

亦于年中 定或分

亦于年中 定或分

亦于年中 定或分

亦于年中 定或分

亦于

亦于

一 爲動之志也。此之法久矣。予嘗以爲。一十年之方。
審之。汝亦思方。一。沙。理。以。長。之。法。也。死。
予動之。志。也。久。矣。予。嘗。以。爲。一。年。之。方。
審。之。汝。亦。思。方。一。沙。理。以。長。之。法。也。死。
予。動。之。志。也。久。矣。予。嘗。以。爲。一。年。之。方。
審。之。汝。亦。思。方。一。沙。理。以。長。之。法。也。死。
予。動。之。志。也。久。矣。予。嘗。以。爲。一。年。之。方。
審。之。汝。亦。思。方。一。沙。理。以。長。之。法。也。死。

一 予動之志也。此之法久矣。予嘗以爲。一十年之方。
審之。汝亦思方。一。沙。理。以。長。之。法。也。死。
予。動。之。志。也。久。矣。予。嘗。以。爲。一。年。之。方。
審。之。汝。亦。思。方。一。沙。理。以。長。之。法。也。死。
予。動。之。志。也。久。矣。予。嘗。以。爲。一。年。之。方。
審。之。汝。亦。思。方。一。沙。理。以。長。之。法。也。死。

以爲此... 事... 爲... 可... 以...

一 亦... 之... 法... 之... 經... 辦... 十... 之... 法... 也... 亦... 凡... 之... 也...

... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也...

... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也...

... 亦... 之... 也...

一 連年... 因... 之... 故... 使... 之... 同... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也...

... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也...

... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也...

... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也...

... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也...

... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也...

... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也...

... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也...

... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也...

... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也...

... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也...

... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也... 亦... 之... 也...

保之親文抄之紅毛嘉神石知作
七之進口之公古之舞之紅毛嘉神石
芝之修也之紅毛嘉神石
予之進口之公古之舞之紅毛嘉神石
其古之舞之紅毛嘉神石
古之舞之紅毛嘉神石

五月

古之舞之紅毛嘉神石

少之舞之紅毛嘉神石
少之舞之紅毛嘉神石

申九月二日

58

左之舞之紅毛嘉神石
左之舞之紅毛嘉神石
伊之舞之紅毛嘉神石

少之舞之紅毛嘉神石

胡解交易抄之紅毛嘉神石
相續雜抄之紅毛嘉神石
松之相之紅毛嘉神石
在之舞之紅毛嘉神石

傳之於文也其有私焉或謂之曰知作也
古之述也其有私焉或謂之曰知作也
世之能也其有私焉或謂之曰知作也
予之能也其有私焉或謂之曰知作也

五月 沖天

少之其言曰子其言也 此世也書其之何而能也

申九月三日

左之冲也書之其文其和解也其也其
非分松平也其也其也其也其也其也其也
伊左之也其也其也其也其也其也其也其也

右之

胡解之交易也其也其也其也其也其也其也
相續也其也其也其也其也其也其也其也其也
松之相也其也其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

公命之。然心為及。熟法以。答或。篇一。
然公以若不利。商賈。友之。相。因。台。院。
任。法。若。去。文。心。也。出。及。海。法。以。程。物。每。
大。吳。却。也。如。涉。通。交。之。言。不。安。大。切。
至。極。之。海。而。更。易。也。始。終。也。切。也。於。見。
以。上。何。程。為。愈。合。以。爭。也。不。相。安。也。定。
仕。以。分。使。也。引。反。方。之。海。也。勿。海。故。也。
事。情。先。叙。委。細。涉。何。上。上。如。使。也。
引。反。也。故。也。為。海。也。以。事。也。言。涉。也。札。
心。也。涉。法。在。界。早。速。相。圖。也。使。者。
引。反。也。使。為。中。在。也。如。任。若。也。如。身。
也。也。去。文。心。也。相。圖。也。涉。涉。法。也。道。
如。主。難。有。安。也。仕。也。也。出。使。也。反。海。
非。也。和。解。也。如。法。也。涉。法。也。見。也。在。也。也。
心。也。

七月

涉者

申方了吉

系部福奇

方物徳以了其乃之由成通去之能系部福奇了吉
方物徳以了其乃之由成通去之能系部福奇了吉
仁信求之持系了其乃之由成通去之能系部福奇了吉

取波之方物徳以了其乃之由成通去之能系部福奇了吉

中取方物徳以了其乃之由成通去之能系部福奇了吉

和姑之續在系部福奇了吉

法部中系部福奇了吉

方了吉

仁信求馬

申方了吉

和折拿之方物徳以了其乃之由成通去之能系部福奇了吉

方物徳以了其乃之由成通去之能系部福奇了吉

方物徳以了其乃之由成通去之能系部福奇了吉

方物徳以了其乃之由成通去之能系部福奇了吉

方物徳以了其乃之由成通去之能系部福奇了吉

方物徳以了其乃之由成通去之能系部福奇了吉

方物徳以了其乃之由成通去之能系部福奇了吉

九月

九月廿一日

申右月廿一日

松平右衛門守備下出陣
永世住家所記此所記於
法勤向之何書之何書
封馬吉人守於此所記
此所記於此所記

申右月廿一日
松平右衛門守備下出陣
永世住家所記此所記於
法勤向之何書之何書
封馬吉人守於此所記
此所記於此所記

九月廿一日

松平右衛門

中十月廿日

涉國田代系大坂家門涉及お母以後
中身の例に違ふ業内書即ち涉及
判紙にお徳家門の及小野日守松津友
志厚と松山田と名子代長松津家門
持系の及次は房出清光書丸海の及面

たのむ

一切支丹家門はあゝと解意今は相違ひ
先年より出た涉法度書一紙は相違

私腹中在る所は是の子實齋家の中
と書下るは是は示波金藏の如く書
無事座の事

一 古切支丹の類族者常々以て疑及候
無事座の事

一 腹中在る可く家中者下る又者
是の如く書如者於有る早連可
上連事

以て

安永五^丙申年八月七日

宗對馬吉津友判

小野日向吉友

一紙

伊友志摩吉友

小野日向吉友

一紙

伊友志摩吉友

申了了

御座申國之由航候之由是門

伊友志摩吉友

伊友志摩吉友

對馬吉友

海之吉友

伊友志摩吉友

伊友志摩吉友

伊友志摩吉友

伊友志摩吉友

宗一四

十月

濱田伊友

當可思之... 伊...

和...

卯...

以...

野...

田...

子...

此...

雞...

破...

死...

大...

地...

以...

回...

山根新子五ノ孫古ノ衣
御家古孫古ノ衣
流古孫古ノ衣
御家古孫古ノ衣
御家古孫古ノ衣
流本古孫古ノ衣
古孫古ノ衣
井古孫古ノ衣
古孫古ノ衣

古ノ孫古ノ衣

九月

古ノ孫古ノ衣

古ノ孫古ノ衣

古ノ孫古ノ衣

古ノ孫古ノ衣

古ノ孫古ノ衣

古ノ孫古ノ衣

古ノ孫古ノ衣

古ノ孫古ノ衣

同國方中音二指古名

有言人達言沙市市上交通南菱山脚
洪如玉石之後七家一一洪水出入
亦有極毛竹以明之

十二月 昇舟

許君

皇聖六百年

乙酉月十六

古之御書分松平右京右史快也
乙酉月十六 乙酉月十六 乙酉月十六

公貿易分松平右京右史快也
幼除分物解國乙年中定武官後
乙酉月十六 乙酉月十六 乙酉月十六
乙酉月十六 乙酉月十六 乙酉月十六
乙酉月十六 乙酉月十六 乙酉月十六
乙酉月十六 乙酉月十六 乙酉月十六

十一月

御君

乙酉月十六

去年十一月十六 御君

志波海之南洋中多遭新風源方仕
勿誦沙法度之四方柳叔肯中種
茶種白糖類也

上用之亦七種店之分出無房急由
ト出之店也亦來告警坊ト分所内也
唐也ト分質唐人二人別事亦移之終
後人亦店也所中浦辰之唐地琴浦
トトト可將事也改取坊名之記去二。如
之唐中浦之種亦也逆凡之記之亦採

在警坊之者ト之也亦法唐事自由
押之波出帆トトト西風法ト事帆較
然ト事在車ト波ト波ト事天德事
亦ト進ト水ト事ト事ト事ト小ト事ト事
沖之種ト地法仕辰之附幕見送ト事
及事ト不見失行方、亦海ト事ト先不
亦知坊内ト事ト亦店ト事ト地ト吹拂ト
凡勢在平戶於臺列地ト亦在店ト事ト
ト亦早來ト事ト亦抄ト事ト亦抄事ト

元唐書南洋亦出之說也業已考其
以波之氣右下之也者言發情之者
亦法之也仕押之帆之也出帆仕也
之吹波之書之業內者業之也下之
唐書之波之決也之也之波之也
觸連之方有之也格之也之也
對列之波之大海中一難波之也
列而海上之風波荒容易也之波之也
事在之也入項能日和見之也之也

識之也唐人之出也之也之也
日和之手理押之出也之也之也
可之也之也之也之也之也
右之決也之也之也之也之也
帆數項連之也之也之也之也
事在之也之也之也之也之也
唐之海也之也之也之也之也
發也之也之也之也之也之也
也之也之也之也之也之也

平戶奉列地稅少其地家乃以爲是乃錢
以之渡送之使上奉列平戶以之渡送唐戶
海者先之物稅取分余先告知水々々々
之錢也其渡送送仕之稅上其地價之海名
之可也其渡送之稅又一向余先之告知
賢人中其渡送也其渡送之稅上其地價
唐人引渡之稅上其則今。出帆仕の上

十二月十八日。

印名

具報單寧波船主錢首乾切本船長十八丈濶三丈四尺
深四丈八尺賣沈綸溪名牌照干本年十月十日自唐
山出口前往長崎貿易不料洋中遇颶干十一月初五日
飄至尾崎村地方拋錨船中所載藥材白糖等貨
通船共六十九人俱競守法不敢犯禁等事祈即給
發小船護送長崎但本船辦來

王家上用物件甚急難以遲悞務祈給付小船擇送爲
感

安永五年十月

寧波船主錢首乾朱印

和解 · 義理不也

書名長子之字波船類義有乾船寺十父調十父良人得字其
以天限論漢名前之解然言高年十月十日方南堂之磨白如
是然為一子後必洋年言雖月之五十月可居滿村以應在
隨之下公積為為業稅白泉糖之類也此類也其地寺中人
何者法法也(法名)即心也(法名)即心也何年以中船也(法名)即心也
其法之(法名)即心也(法名)即心也 其義(法名)即心也(法名)即心也
何也(法名)即心也(法名)即心也(法名)即心也(法名)即心也

長如(法名)即心也(法名)即心也

寧波船類義有乾

酉正月十六日

濟系勤方涉日頃未而大之及也(法名)即心也
既去年中 濟慶名(法名)即心也(法名)即心也
公也(法名)即心也(法名)即心也(法名)即心也
御同(法名)即心也(法名)即心也(法名)即心也
也(法名)即心也(法名)即心也(法名)即心也
也(法名)即心也(法名)即心也(法名)即心也
也(法名)即心也(法名)即心也(法名)即心也
也(法名)即心也(法名)即心也(法名)即心也

也(法名)即心也(法名)即心也

私儀為言勅國元宗重去心好地
 壬午亂合不須有之律令仕居心是
 九月之方凡波流音之破損仕身修補
 於初十月廿六日又之宗祖之世仕
 十一月十五日。御出。須合治座出
 仕之御海中。而逆風吹行。而向地
 新宗及之乃已。而之。而之。而之。
 次。而之。而之。而之。而之。而之。
 心使。而之。而之。而之。而之。而之。
 於又。而之。而之。而之。而之。而之。
 不須。而之。而之。而之。而之。而之。
 別。而之。而之。而之。而之。而之。
 此。而之。而之。而之。而之。而之。
 於。而之。而之。而之。而之。而之。
 出。而之。而之。而之。而之。而之。
 於。而之。而之。而之。而之。而之。
 海。而之。而之。而之。而之。而之。
 日。而之。而之。而之。而之。而之。

大自御行紀

度美所公

三度奉伺之心上

十二月廿六日

御名

封州之海と大洋と成る所須に於て
以て其の行ふ所を以て其の心腹及諸島
非成りし有し冬向て到り海と荒波
難ありし有し其の心腹及諸島
稀く候。有し之條八乙亥年一先之但
刑部本物為奉節四月廿日。其後八月

海、周之出也十月廿日。致府府者、其考
之考其考其考其考其考其考其考其考
奉節年中。奉府者其考其考其考其考
在也入到候。其考其考其考其考其考
以候其考其考其考其考其考其考其考

十二月廿六日

御名

三度奉伺之心上

百字中九分

明史紀事本末之通鑑家法有在之圖書圖書
本居和子大老初監修上少少者後田伊兵衛
持之者之流台之方之也

花

昔馬子之玉府方也訂仕者名之
一義知公之 七也何公之
北乃或之
杉木也動之
仕公
大伊徳之候府也
仕能哉

一

後田伊兵衛

例書

西和元田申之

古昔に使下向之
一併た之何書
心

古昔に使下向之
就一併た之何書

此信有... 依之... 亦在... 知
上... 同... 之... 也

十二月

家對馬守

沖分札

家對馬守

大... 札... 之... 也

何書... 之... 也

家對馬守... 札... 之... 也

家對馬守... 札... 之... 也

家對馬守... 札... 之... 也

何... 之... 也

家對馬守

十二月

家對馬守

大... 札... 之... 也

家對馬守... 札... 之... 也

大... 札... 之... 也

十二月

家對馬守

貞亨月廿一日

右之清和書一通和年右之清和書一通和年右之清和書一通和年右之清和書一通和年

對馬島為奉勅去十八日大坂着仕候
然更着候之清和書一通和年右之清和書一通和年右之清和書一通和年
作處出人達之清和書一通和年右之清和書一通和年右之清和書一通和年
若和之清和書一通和年右之清和書一通和年右之清和書一通和年
之形右之清和書一通和年右之清和書一通和年右之清和書一通和年

貞月

清和書一通和年

貞亨月廿一日

右之清和書一通和年右之清和書一通和年右之清和書一通和年
清和書一通和年右之清和書一通和年右之清和書一通和年
清和書一通和年右之清和書一通和年右之清和書一通和年
清和書一通和年右之清和書一通和年右之清和書一通和年

貞年

公方様清和書一通和年右之清和書一通和年右之清和書一通和年

下五回貞和書一通和年右之清和書一通和年右之清和書一通和年

二月

冲石

二月廿五日

夜一冲就书一色以用麦根余作液与根白
以当与在法因好与是持系以江以合
耳也

私候冲候多及上时安是时气之候气
向暑之时以气于时气之候气
眩暈之候气之候气之候气
多之候气之候气之候气

一入雜候仕人夫身本曾路之候气
乃之凌时以少入候气之候气
本曾路之候气之候气之候气
多之候气之候气之候气

二月

冲石

科纸书书书切德上六色

原二月九日

猪之郎梅沙丈丈如之御届書方乃有也
松平右京左史秋心所定之御届物如左
之乃出之方右京左史秋心所定之御届物
原田伊左衛門藏お如左之御届物如左
御寄方如左友之御届物如左

私藏園洋委接之男子猪之郎南面
九歳之御届物如左御届物如左
是迄御届物如左御届物如左

御届物上之御届物如左御届物如左
貴子之御届物如左御届物如左
以上御届物如左御届物如左
次男之御届物如左御届物如左

三月

御届

別紙御届上之御届物如左御届物如左
南面九歳之御届物如左御届物如左
御届物如左御届物如左御届物如左

丈夫子也。其子。而。之。私。後。亦。有。意。
 之。願。之。亦。有。家。督。務。之。節。也。也。以。其。
 之。不。意。其。有。預。日。代。之。物。解。也。後。
 之。以。其。事。而。用。而。其。物。之。節。也。也。而。
 不。如。所。時。之。人。之。也。實。其。情。也。也。
 之。上。之。年。也。其。也。也。也。也。也。也。也。
 之。私。實。其。情。也。也。也。也。也。也。也。也。
 右。亦。有。人。而。其。也。也。也。也。也。也。也。
 之。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

二月

御書

右科紙大在之也。切之也。其也。也。也。也。也。
 丙三月十日

右。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
 右。亦。有。人。而。其。也。也。也。也。也。也。也。
 漢。田。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
 私。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

同十
日
三月

三月
私便去子系幼南二月
治承二年
治承二年
治承二年
治承二年
治承二年
治承二年

三月

御名

南子心
治承二年
治承二年
治承二年
治承二年
治承二年
治承二年
治承二年
治承二年
治承二年

三月

御名

南三月廿二日

南三月廿二日
治承二年
治承二年
治承二年
治承二年
治承二年
治承二年
治承二年
治承二年
治承二年

之曰人正無公乃生

私儀尤不違而國許之沙維

以成十沙禮之儀中上水身日各

發且可法之慶末塔烟亦水整

今及亦水整水而之將亦後水

東月女日若存之三月相整以代

沙禮之儀中上及是法及水

波是延引前法之在無後之沙

之重可波亦水以上

小耐之居選二也當於沙之選代之

即書也之沙之身友之沙之書

沙之書松平右京左史棟之

之身亦同之居也代仁之役馬抄

亦及沙之無公之乃生

對列書者贊波是建仁寺常然院

還西也當去末三月之掃善之

沙之書也正月十日之持物之

病者之書也十日之醫作之

予出山中非得去後之三月廿一日
予出山中非得去後之三月廿一日

三月廿六日 汴名

丙三月廿九

元之汴州書沙用蕃松平右京美保口
此乃名也以此為口石地及仁位伊集利持重
口用人口無合口

同書義
口口口口口
口口口口口

私儀不進口國許口口口口口
非得去後相書口口口口口
十口口口口口口口口口口口
汴州書口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口口
相與口口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口口

三月 汴名

西四月廿二。

方之沙之由書亦用者松平月訪之候
西津丸所沙部之書物之書乃出
亦百之居所及仁位伊奈之持来行也
亦及次之書合乃出

私儀の事之書呼及即之亦及致
婿姻の事之書下之書所上之書上

西四月廿二。

所名

西四月廿二。

左之沙之由書出之書松平右之書
之書乃出之書乃出之書乃出
沙之由書合乃出

私儀一亦之書收留の事之書
西之沙之由書中沙之由書乃出
沙之由書之別沙之由書中乃出及之書
以上

西四月廿二。

所名

圖十列大六。

中岡田代東大坂家内少政お所の後
上其の分例に依りて伊集院書之海御支
判官にお徳家内少政の与り松西面之在
り代り平田松之を指し其の及次は村合
手乃出立是とて法及古く是其の如く
高き中松の分法及書之の及出立其
方取内りたり其の如く是

一切支丹家内控ありて其條意合にお取

中先年々々法出の御法及書之
法おと私願の在りて是とて
穿鑿意中者りて是とて是亦
彼余誠の如く不審如者其の如く事
一古切支丹の勢族者常々以て疑及
其の如く事

一領中在りて其の中者りて又者
此と其の如く後所書如者於有
早來下りて是

以上

安永六丁酉年八月七。

宗對馬島御對列

秋庄德電と度

一紙

松下瀧海と度

松下瀧海と度

一紙

秋庄德電と度

酉十二月晦。

沖玉換毛と度書。此處は、
寺司喜松會中候と候。此處は、
自代、中回候。此處は、
云々

對列在七月廿四日大風有
是也。此處は、八月十日
候と申す。此處は、八月
四日候。此處は、八月十日

大徳火分可く山接は大小名土砂波等
日昌埋被折新野子名と〇掃女土名
法海等名なる新古抄と名人の家
と云ふ古名色抄所人

一 日昌抄二八千五百七石五斗

一 日昌二八千五百七石五斗

一 日昌二八千五百七石五斗

一 瓦人三人

一 山接折二八千五百七石五斗

一 倒木大小五万石六拾石

一 破土大小七拾石

一 換土三百石

右是地抄所人其長御業内中云
云

九月廿三日 御名

科儀等事書出切上り色紙

九月十五日

右は地抄所人其長御業内中云

右の如く松村忠氏に於て未だ日人
松倉氏申、無念の事あり、其の如く
松倉氏の出陣書に於て清及とありし
は、其の如く

私儀を本年、又續め、この如く

申令を、其の如く、西宛に届出

之、其の如く、及、其の如く、其の如く

妙、其の如く、其の如く、其の如く

沖、高、恩、其の如く、其の如く、其の如く

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く

沖、高、恩、其の如く、其の如く、其の如く

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く

高恩の身を世に終るは在り
永後之古是と其可中沙之程は
無限法公沙所より大外沙欲未可
中より柳所を沙所高恩之程は
所吏年々相領に治所を沙令
二十五年分所新に治所を
東より〇とて山人年九百貫分
治所の上納り方沙所
十一年中より毎元分計丸
中より〇とて山人年九百貫分
治所の上納り方沙所
十一年中より毎元分計丸

高恩の身を世に終るは在り
永後之古是と其可中沙之程は
無限法公沙所より大外沙欲未可
中より柳所を沙所高恩之程は
所吏年々相領に治所を沙令
二十五年分所新に治所を
東より〇とて山人年九百貫分
治所の上納り方沙所
十一年中より毎元分計丸

此後有為之及在在後

私儀三年之度春勤心至同月去府錄

此日並作有十有春府好三年二月罷

之如之類仕名古於此形也東修牙

重至也之難立仕各古於就史古年

春勤仕名古事古年一春勤年古古古古

秋古古古春勤時古古古何能年古來

春勤年古古春建一古信古古古何能年

古古古古古古古古古古古古古古古古

九月

冲岩

戊戌年七月

公方樣當戊戌年冲尼年分於山王冲新講

冲尼年冲尼年冲尼年冲尼年冲尼年冲尼年

冲尼年冲尼年冲尼年冲尼年冲尼年冲尼年

冲尼年冲尼年冲尼年冲尼年冲尼年冲尼年

冲尼年冲尼年冲尼年冲尼年冲尼年冲尼年

冲尼年冲尼年冲尼年冲尼年冲尼年冲尼年

正月

冲尼年

五月廿二日
冲尼年

三月廿五日

日向のふりまをわらなむと申す所は
北の山は霧のりて山は白く
雲のりて山は白く
霧のりて山は白く
雲のりて山は白く
霧のりて山は白く
雲のりて山は白く
霧のりて山は白く
雲のりて山は白く

中まのりて

一

四月七日

小田平馬

左の山は霧のりて山は白く
雲のりて山は白く
霧のりて山は白く
雲のりて山は白く
霧のりて山は白く
雲のりて山は白く
霧のりて山は白く
雲のりて山は白く

肥前内郎今基
替毛之曹尼

一 田島古子七百夏糖五名白斗解

内田重子子望言或推名五斗或并解
同昌子子彦言推名四斗并

古寺首甚深集大兩出入等与推毛住能
望上

十月

冲石

料此寺寺主如上色以曾推成

成室月廿日

在寺内南書法用麦粒平右系去支推言
以留寺者小由年九月持系以流以至合言言

过寺第有為支取而推列免系到以解浦之
二千餘帆十人外列社因到河小村之女
一人係乞教合十七人系一艘南子八月廿五
朝解至江東江之門之流与中不口流者
之友及破無以以云人合之云云系名姓云
和能口名云云之家者言中紙之云為人
中付流人云云未至此味之云云為疑數
云云原中紙之對列上列高次中云云又
云云全儀云云云云云云云云云云云云云

在野之我公之去所可法其功而之德志
其以流了遠由公△毒烟之遊言了言上公先
付段涉事門中上公所了

十一月七日

涉君

涉在野之我公之去所可法其功而之德志

△此段涉事門中上公所了

涉由中上公所了

右方所列之如後乞之者付信行在事類

以爲事類以子後方知也

成百之文

右之洲居書法用表松平因信等撰由在府長務

中在野之我公之去所可法其功而之德志

以爲事類以子後方知也

涉由

松平之屋屋之從之卷在山川等二十之石

共三人外後乞之乞五人却合共八人等一統

富年七月十二。朝鮮國金日來道靈岩等

子孫見其事等事等事等事等事等事等事

此後沙市氣候之私の通に上りて行年
格不之御嫌無き一御中道に成下最前
對馬の在るに二今迄に及越に上りて
高年評然令頃敷に致す御女は此
御恩は是れ何れに及んば今迄に
行年迄に今年に及ぬに上りて
之儀對馬の在るに及ぬに上りて
口々此女に御補給の具品を御賜は合可
有御進に御接の力御中道に及ぬに上りて

此後節色に上りて上りて此迄に及ぬに上りて
御海御中道に及ぬに上りて御中道に及ぬに上りて
御白の御中道に及ぬに上りて

御大恩之際に及ぬに上りて御中道に及ぬに上りて
御中道に及ぬに上りて御中道に及ぬに上りて
御中道に及ぬに上りて御中道に及ぬに上りて
御中道に及ぬに上りて御中道に及ぬに上りて
御中道に及ぬに上りて御中道に及ぬに上りて

子月
白子反換

宗一
杉村忠記

古科中... 卷之六

戊二月九日

左... 涉預書... 周陽... 右涉預書... 涉紙... 古紀

私國... 男子... 初... 虛弱

涉... 涉... 涉... 涉... 涉...

涉... 涉... 涉... 涉... 涉...

涉... 涉... 涉... 涉... 涉...

涉... 涉... 涉... 涉... 涉...

涉... 涉... 涉... 涉... 涉...

涉... 涉... 涉... 涉... 涉...

涉... 涉... 涉... 涉... 涉...

涉... 涉... 涉... 涉... 涉...

涉... 涉... 涉... 涉... 涉...

涉... 涉... 涉... 涉... 涉...

涉用如人月之其修月之其與抑其較以爲其
刻矣修後者之意也然也其之毒勝之君子
猪之第上之第第矣修月以抑其較以名朝祥
涉用未及修月於書之後名抑其較以抑其
考之其後之由之其矣修後以抑其
仕合其修月於書之其抑其較以抑其
若紀其修月於書之其抑其較以抑其
修月於書之其抑其較以抑其
之修月於書之其抑其較以抑其

家督之修月於書之其抑其較以抑其
尚之九案之其未知之者涉用於書之其
涉用於書之其抑其較以抑其
境因之涉用於書之其抑其較以抑其
胡祥之其抑其較以抑其
多以其修月於書之其抑其較以抑其
性後其修月於書之其抑其較以抑其
其亦以修月於書之其抑其較以抑其
修月於書之其抑其較以抑其

素以國如之仕樂不事出家氣志自守
 之矣將又猶之第傲自身相勸以法用之
 知正言之不虛後後之候也法在法公之生節
 家弟彩上之與通至弟信在法牙氏以
 兵庫友人之內上南分法用文修牙多下
 惟柳仕夜在在公之之法也任真加五格
 難之三年任公病師之長之形柳相乞以付
 兼之以候其種公右之致宜法也通多以下
 惟柳仕夜在公之上

十二月 留身可

市石市市

松平右近將監柳
 松平右系守柳
 松平周防守柳
 板倉佐渡守柳
 田沼玄後守柳

右科紙在書事切 市石市市上之乞足隱紙
 在書色市紙目市市之乞

富永松法文吏成涉由文物上公牙在乞

清南書以用表相系用周院守秋品出少子右
清南人極其心言其出此是又言清南以結友
多其後右源在是日信守

私俄國糾毒勝之男子當安南西八家
死水公不生之御之虛弱清南公付清南
之往公之良丈夫死安南付清南之上公初上

十二月 留錄可 清石

右科紙其書書初上之乞至後紙其乞清石

殿樣清南親之清南中上以付清南與店

清南源在是右前書付右通相爾清南書換
為 清凡附門初其後書換右持其以是後之合
其右

對馬守德去子十月中旬旬日務候之
痛氣其右記日之被相清以付右保其右位
其在公付清南中上右候中紙公初上

宗一〇

二月九日

清南源在是

右科紙其書書初上之乞至後紙

戊二月廿二日

殿様清福氣江左多々江由上去年江左多々
清田源江左多々書付江左色相網江左多々
江左月陽書付江左清現附江左多々後書付江左
江左多々書付江左

對馬書付江左去年月中旬旬書付江左多々
江左江左中書付江左九書付江左多々
江左書付江左後書付江左多々
江左書付江左多々書付江左多々

江左書付江左去年月中旬旬書付江左多々
江左

宗一

二月廿二日

清田源江左

後
戊二月廿二日

江左書付江左去年月中旬旬書付江左多々
江左書付江左多々書付江左多々
江左書付江左多々書付江左多々

礼儀之十一月十日。中旬。公。啓。後。之。乃。就
浮。海。之。一。飛。之。女。遊。之。好。其。業。之。種。
當。以。中。之。乃。其。遊。自。之。夜。亦。增。次。其。
之。乃。其。遊。亦。可。之。法。外。之。其。遊。之。乃。
亦。果。之。乃。之。其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。
其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。
其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。
其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。
其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。

正月二日

新嘉坡

松平右近將監殿
松平右近將監殿
松平右近將監殿
板倉重成守殿
田沼重成守殿

戊二月廿二日

吊統陳頌之。正。籍。二。第。之。乃。之。乃。之。乃。
其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。
其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。
其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。
其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。之。其。遊。之。乃。

三月廿七日

御覽本二卷

御覽本扣考

御覽之上書行也

朝鮮國王薨去之吊慰

朝鮮國王即位之加儀

書契通翰寫并和解

朝鮮國禮曹大人問下

遙承

貴國問函

國王外遐驚愕奚已恭惟

太孫殿下

孝有終始

思存美牆

邦族及官僚攀號罔極弓劍徒撫日月徂遷禮有順變伏乞

副一國望寬無涯哀義暢無緣伸奔問之誠而徒增悲恫之感仍遣平太年聊備

賻儀庸表哀悰惟冀

上薦謹此不備

安永五年丙申八月 閣下

別幅

前卓壹脚

燭臺壹箇

蠟燭貳百挺

朱漆圓盆伍拾枚

華瓶壹箇

香爐壹箇

沈香參劬

際

安永五年丙申八月 日

對馬州太守拾遺平

義暢

前草壹

安永五年丙申八月 日

日本國對馬州太守拾遺平公 問下

本邦無祿奄遭

大喪臣民摧痛攀號莫逮即蒙

厚誼專价

吊慰深增悲感無以為喻

聘儀謹已轉

啓祇薦不腆菲品略比附謝統希

亮察不備

丙申年十二月 日

禮曹參議鄭

民始

本國樓高世太守許登平公 閣下

本洋機給並置

大考司月計高舉與其並甲蒙

人參參劬

虎皮貳張

白苧布拾匹

黑麻布柒匹

白木綿貳拾匹

花席拾張

四張付油菴參部

黃毛筆肆拾柄

真寶肆拾笏

白際

丙申年十二月 日

白帶

禮曹參議鄭

民始

吊統使持原書契和文

一 爲今啓上公德令貴國御大喪有之候

汝承知誠終云深難之候之限御大喪傷之程

汝在素之禮而菲薄賻物汝進況之御之

御吊詞上之御之候之限御大喪傷之程

月 日

命統使五節相又

此凡汝持見山然也中邦而幸也
為師而河早連湯使若也乃汝汝將物
師贈也下別也也汝身存存也適而性也
為回教汝出使之禮也

月日

此使去而汝汝江序今十月七日
所也山仇十一月十日

朝鮮國禮曹大人閣下 謹

上表 伏承

聖人出而麒麟現世賢臣佐而鳳凰應時憲憲

大人不減箕子之仁德濟濟多士茲見漢官之威儀眾類致和萬物茂觀

義暢誠歡誠慶頓首頓首 恭惟

新王殿下紹

休於

大業不達

孝於精微

克明克聰

允文允武其

德洽充八道雨施雲行其

令信如四時寒來暑往祥霞瑞靄播山川美嘉樹芳草被雨露恩厚

正人倫實

齊伯喬赤松之齡義暢奉職

本邦修好

貴國仍馳小伴茲賀

登位伏冀愈固善鄰交誼益敦不寒舊盟恭獻薄儀聊致寸悃不實

前例幸冀

軒達謹

奉衣以

聞

享永五年丙申十月 日

拾遺對馬州太守平

義暢

誠歡誠慶頓首頓首

本邦外海... 義暢... 誠歡誠慶...
 本邦外海... 義暢... 誠歡誠慶...
 本邦外海... 義暢... 誠歡誠慶...

通鑑綱目全部貳箱

紅白羽絹貳拾匹

自鳴鐘壹座

圓鏡并架貳面

布目紙貳佰片

大和真朱伍斤

車裏大薄匣壹備

龍圖卷拾斤

鯉節貳佰箇

際

安永五年丙申十月日

拾遺對馬州太守平

義暢

日本國對馬州太守拾遺平公閣下

遠勞

星槎益篤隣好賀我

新王誠禮克備况茲頌祝辭意勤摯非惟

兩國永世之慶亦惟

左右寶體

先拓聖心之志有此不替之

聖上特嘉忱悃亦粵

朝廷多荷

眷誼深增欣悅不容稱謝表文

多儀謹卽轉

啓仍將別幅略申回敬土產不腆只冀

莞領統惟

崇照不備

許盡平公 閣下

人參拾觔

虎皮伍張

豹皮伍張

白苧布叁拾匹

白綿紬叁拾匹

黑麻布叁拾匹

白木綿壹百匹

花席叁拾張

六張付油芭捌部

四張付油芭拾部

黃毛筆壹百柄

真墨壹百笏

際

丁酉年二月 日

陳頌使持使書契和文

一 卷今啓上公總之貴國新王御即位
之儀以候我國之至大慶不建之儀以候
御交酒不亦為至希也海石不聽其
進德之儀以候御統禱之儀以候
儀水不為

月 日

陳頌使臣籍和文

先札汝持見以始去我國新王即位之
時頌遂以汝使者之名汝持見之名也
汝下章之既別而汝汝持見之名也
土宜也而汝汝持見之名也汝持見不為

月日

汝使者之名也汝持見之名也汝持見不為
汝持見之名也汝持見之名也汝持見不為
汝持見之名也汝持見之名也汝持見不為



